様式１

令和8年度 佐賀市立成章中学校 教育課程

１ 学校教育目標

教育目標「心豊かに、自他を高め、章を成す」

２ 本年度の重点目標

・特別支援教育の充実
・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の実践
・生徒指導の4機能を視点にした教育実践

３ 重点取組内容

（１）学習指導の充実

・「見方・考え方」を働かせた深い学びの実現
各教科の特質に応じた視点で思考を深め、知識の関連付けや問題解決、創造的な活動を重視した授業を展開する。
・「指導と評価の一体化」の推進
評価の場面や方法を工夫し、学習の過程と成果の両面を捉えることで、きめ細かな指導と確実な定着につなげる。
・学習ログの活用による授業改善
ICT端末等に残る学習履歴（学習ログ）を分析・活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた不断の授業改善を行うとともに生徒の学習改善にも取り組む。
・客観的データに基づく実態把握と改善
全国・県学力調査やNRT等の結果を詳細に分析し、生徒の実態に即した課題解決と指導の質向上を図る。

（２）生徒指導の充実

生徒の自己指導能力の獲得を支える生徒指導では、多様な教育活動を通して、生徒が主体的に課題に挑戦してみることや多様な他者と協働して創意工夫することの重要性等を実感する。
・(自己存在感の感受)学校生活のあらゆる場面で、自己存在感を生徒が実感する。ありのままの自分を肯定的に捉える自己肯定感や、認められたという自己有用感を育む活動を取り入れる。
・(共感的な人間関係の育成)支持的で創造的な学級・ホームルームづくり。
・(自己決定の場の提供)授業場面で自らの意見を述べる、観察・実験・調べ学習等を通じて自己の仮説を検証してレポートする等、自ら考え、選択し、決定する等の体験を取り入れる。
・(安全・安心な風土の醸成)お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を醸成する。

（３）特別支援教育の充実

通常の学級でインクルーシブ教育を推進するにあたっては、診断のある生徒への個別的な支援だけでなく、診断のない、いわゆるグレーゾーンの生徒に対する教育的支援の一層の充実が求められている。また、障害があることで、本来受けられるべき利益を受けられない。そのようなことにならないように合理的配慮を講じる。
・「個別最適な学び」であるインクルーシブデザインの視点をもって授業改善を図る。
・通常の学級で、障害のある生徒にとって有効な手立ては、そうでない生徒にとっても有効であるというユニバーサルデザイン視点をもって教育活動を仕組む。
・個々の生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取り組みを促す教育活動を充実させる。生徒一人一人がそのよさや可能性を発揮できるよう、共感的な人間関係を育む。

様式2

学 校 名： 成章中学校

4 学年別授業日数及び授業時間数の配当

（1）年間授業日数配当表

月 / 学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
1	15	18	22	13	3	19	21	19	18	15	18	18	199
2	17	18	22	13	3	19	21	19	18	15	18	18	201
3	17	18	22	13	6	19	21	19	18	15	18	5	191
備考													

（2）必修教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間等の年間授業時間数配当表

学年 / 領域		1	2	3
必修教科	国　語	123	121	95
	書　写	20	20	10
	社　会	108	105	140
	数　学	142	106	140
	理　科	106	140	140
	音　楽	45	35	35
	美　術	45	35	35
	保健体育	105	105	105
	技術・家庭	70	70	35
	外国語	143	142	140
	特別の教科道徳	35	35	35
総合的な学習の時間		52	70	70
特別活動（学級活動）		40	44	35
総時数		1034	1028	1015
生徒会活動		5	4	4
学校行事		10	10	10
その他		0	0	0
総　計		1049	1042	1029
備考				